



突撃!

リスクマネージャー！

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

2019
4月号

No.116 独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院 医療安全管理室 師長 泉敦子様



【愛媛労災病院／愛媛県新居浜市】



【泉様】

■病院の紹介

愛媛労災病院は昭和 31 年に誕生し、新居浜市の中核病院として、感冒や貧血などの日常的な疾患から心筋梗塞や糖尿病、癌などの重篤な疾患まで幅広く治療を行なっています。また、新生児から老人まで幅広い年齢層の患者様に対応することが可能です。当院では労災病院の特徴を生かし、勤労者に対する仕事と治療の両立支援、健康増進のための情報発信、産業医療や予防医療、労働災害や職業病などを体系的に取り扱っています。地域に密着した急性期と慢性期の機能を併せ持った「かかりつけ病院」として診療活動を行っています。

■病院の理念

当院は働く人々のために
そして地域の人々のために
信頼される医療を目指します。

■病院の基本方針

- 1.インフォームドコンセントの実践
- 2.安全かつ良質な医療の提供
- 3.勤労者医療の推進

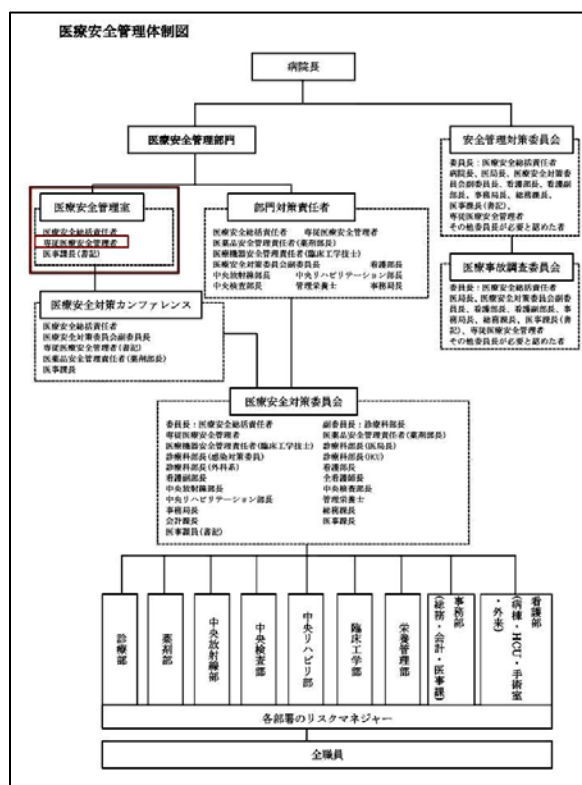
1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制を教えてください。

院長直轄で「安全管理対策委員会」と「医療安全管理部門」が組織されており、「医療安全管理部門」は「医療安全管理室」と「部門対策責任者」とで構成しています。

その下部組織には、週に1回程度開催される「医療安全対策カンファレンス」や月1回開催する「医療安全対策委員会」があります。

また、各部署にリスクマネジャーが配置されており日々の医療安全活動を円滑に推し進めています。



泉様の主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えてください。

私は専従で医療安全管理室の業務のみ行っています。院内の医療安全文化を醸成する使命があり、主な業務内容は以下の通りです。

1. 安全管理体制の構築
2. 医療安全に関する職員への教育・研修の実施
3. 医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価
4. 医療事故への対応

組織横断的に活動して、院内で多職種が協働して医療安全対策に取り組めるようにしています。

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

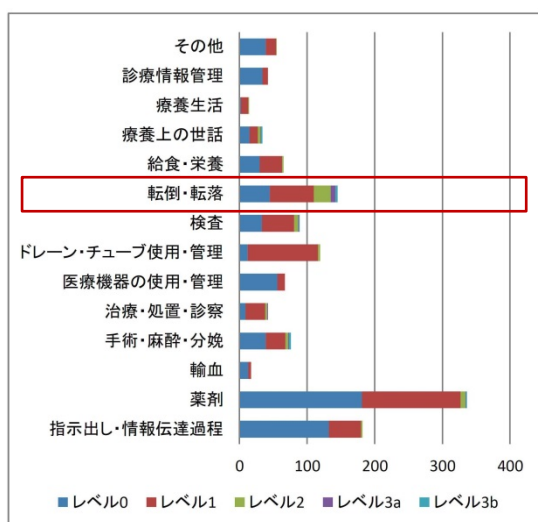
近年の事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

医療評価機構では病床数の4倍程度が適正なインシデント報告数だと提言されています。212床の当院は（平成31年4月～199床）平成25年度以降は報告数が増えて、平成27年度以降は現在の約1,300を推移しています。その中でもレベル0の報告数が約半数を占めることから、スタッフの安全意識は高いレベルにあると感じています。歴代の医療安全管理者から引き継いできたものですが、インシデントになる前の段階から報告し、情報共有できる医療安全文化を育ててきた成果だと感じています。

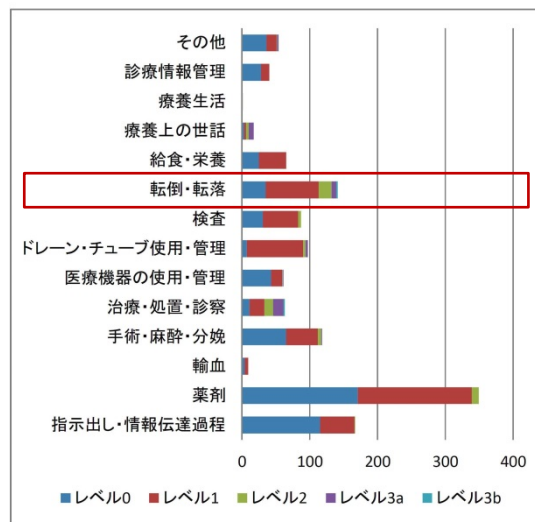
レベル1以上の事故発生で一番多いのが「薬剤」で、次に「転倒・転落」が多くなっています。「転倒・転落」は未然防止をカウントするのは難しいため、レベル0の報告比率が他の事例に比べて少ない傾向にあります。

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
レベル0	65	192	431	460	534	619	575
レベル1～3a	409	461	713	720	744	654	690
レベル3b～4	1	8	8	12	5	9	4
レベル5	0	1	0	0	1	1	0
レポート合計	475	662	1,152	1,192	1,284	1,283	1,269
オカレンスレポート	0	0	3	9	18	21	33
総計	475	662	1,155	1,201	1,302	1,304	1,302

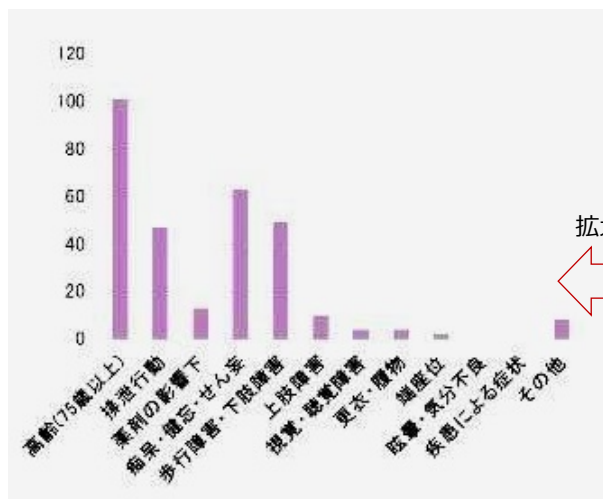
【インシデントレポート数の年度比較】



【H28年度 インシデント報告内訳】

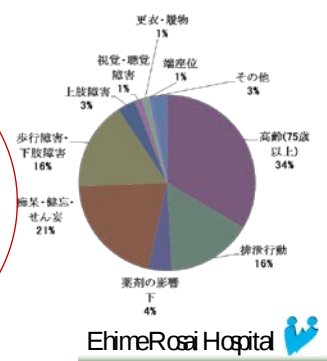
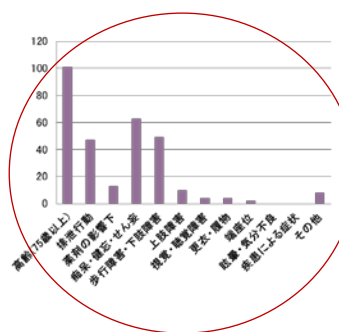


【H29年度 インシデント報告内訳】



◆平成29年度 転倒・転落要因別

拡大



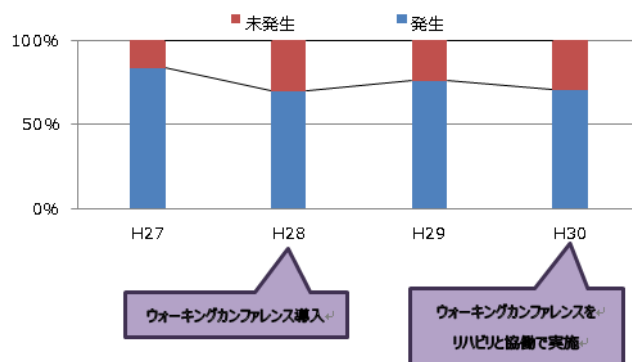
【転倒・転落インシデント要因】

事故防止のための人的対策や注力されている活動があれば教えてください。

様々なラウンド活動を、年間計画を立てて医療安全対策委員会のメンバーで行っています。主なラウンドの内容は「薬剤（注射）確認動作」・「薬剤管理」・「患者誤認」・「5S（環境）」・「転倒・転落」・「フォローアップ」などです。その中の「転倒・転落対策」は当初ひとつの病棟でウォーキングカンファレンスを行っていたところ、発生件数が減少し取り組み成果が出たため、今では病院全体で取り組み、リハビリチームも合同で行うようになりました。

ウォーキングカンファレンスとは、多職種で患者さんのベッドサイドの環境を検討・整備し、個別に看護計画の立案・評価・修正を行うことです。例えば、衝撃吸収マットの必要性、ベッドの高さ調節、適切な筋力評価、ADLの情報共有などで早期に適切な対策を行い転倒・転落インシデントを減少させる目的があります。そんな活動のなかで患者さん・ご家族とカンファレンスメンバーが転倒対策を共有することで三者間の信頼関係が強くなる効果も生まれています。

今後は患者さん・ご家族の更なる参加促進とともに、薬剤師等の他部門も協働できるように活動を強化・拡大させていきます。



【転倒・転落発生割合の年度別比較】

3. 医療安全に関する研修について

医療安全に関連した研修の取り組みについて教えてください。

全職員対象に年に2回以上の医療安全職員研修を実施しており、昨年度は4回開催しました。また、看護部ではラウンド別に研修を開催しています。医療安全に関する研修内容は呼吸関連・薬剤投与関連・嚥下摂食関連・臨床倫理・誤認防止対策・個人情報管理などで、必要に応じて薬剤部、ME、リハビリなどの職種に講師を依頼したり、公開講座にして全体で取り組めるようにしています。

その他、医療安全・患者安全文化を醸成させる目的で「Team STEPPS」に取り組んでおり、事故防止活動が定着し、マニュアルや手順の整備が整ってきています。それらを遵守するだけでなく、臨機応変な対応が必要とされてきている現場では、情報をうまく共有できる能力が必要なため、全職員コミュニケーション能力や情報共有のスキルを高めて、現場で

実践できることが非常に重要になると思っています。

地域の病院と医療安全に関する連携はありますか？

また、医療安全地域医療連携加算制度の取り組みについて教えてください。

香川労災病院・岡山労災病院・当院は同エリアの労災病院として連携があり、各院 5～6 名の医療安全チームを構成して相互ラウンドを行っています。院内のメンバーでラウンドするだけでは気付かない視点での指摘は非常に参考になります。

また、平成 30 年度から始まった「医療安全地域医療連携加算制度」では加算 2 を取得している病院と連携してラウンドチェックを行いました。当院から提言報告書を提出したところ、該当病院からは早急に改善や取り組みを継続する旨の報告書が届き、医療安全に関する意識の高さを感じて当院の日常の取り組みにも刺激になっています。

4. 離床センサーについて

使用機種： コールマット・コードレス ×11 台 / サイドコール・コードレス ×12 台

離床センサーを使用する場合の基準や使用の効果があれば教えてください。

過去に参加した学会内容を参考に、当院では離床センサーの導入数は病床数の 10%としています。導入基準は ①機能と使用頻度のバランス ②使用・設置可能な場所が多いこと ③使いやすさ です。今は全ての基準が当てはまるテクノスジャパンのセンサーを採用しています。新しい情報を入れながら今後も対策を検討していきます。

※使用上の効果や管理方法などは今号の「現場レポート」でご紹介いたします。

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

こんなセンサーが有れば良いと思うものは、「特定人物を識別するセンサー」や「人工知能搭載の赤外線センサー」です。無用な報知を防ぐ効果と共に、患者さんを見守れる機会が増えると思うからです。また、「検知した時に患者さんの動きを一瞬でも遅らせてくれるようなセンサー」があれば嬉しいです。スタッフが患者さんを介助するのは当然ですが、報知してから介助するまでの短い時間をロボット機能がフォローしてくれるようなことをイメージしています。また、センサーは全て患者さんに気付かれにくいものであれば良いと思います。近年の技術の発達を考えると、こんな夢みたいな話も本当に実現するかも知れないと思い始めています。

6. 何か一言お願いいたします。

病院の PR やポリシーなどをお聞かせ下さい。

当院は急性期病院で院長方針でもある「コンパクトにスピーディーに」決定・実行することを心がけています。その判断力や実行力を地域のみなさまに反映できるようにしていきます。実行するためには様々なことに気を配り、情報収集を怠らないように、これからも医療安全に遅れをとらないように努めていきます。